

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	その他専門店 [造花]（店 長）	販売量の動き	・クリスマス商品や正月商品を扱っているが、例年に ないほど動きが良い。秋物商品についても同様であ る。また、最近始めた新商品についても動きが良く、 好調である。
		観光型ホテル （経営者）	来客数の動き	・愛知万博や知床プームの影響からか、ここ数が月 間、来客数は前年比での減少が続いていたが、ここ最 近は客室の予約状況が上向いている。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	単価の動き	・9月に入り、寒暖の差が激しくなっているが、冬物 コートなどの高額な商品のトレンドが見えてきたこと から、そうした商品の動き出しが早く、単価的には上 昇してきている。
		一般小売店 [酒]（経営 者）	販売量の動き	・今月は天候の良い状態が続いているため客の出が良 く、また新規の取引先が何軒か増えたこともあり、販 売量は良い状態で推移した。
		一般小売店[土 産]（店員）	来客数の動き	・北海道への観光客に関しては、昨年かなり落とした 面もあるが、今年は増えてきていると感じる。団体客 は依然として落ち込んでいるが、個人での小旅行に加 えて、愛知万博の影響への反動もあり、北海道観光に は明るい兆しが出ている。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・北海道における既存店全体の売上は前年比97%と、 全国平均値の100%からは3%の遅れとなっている が、衣料品、住居用品、食品の3部門で前年比が8月 から改善している。9月前半は例年にないほど気温が 上昇したことで、衣料品、住居用品が苦戦を強いられ たものの、後半の大型プロモーションが成功したこと で上昇した。客数についても前年比97%と、前月から は2%の増加となった。
		衣料品専門店 （店員）	単価の動き	・主婦層の買上金額、単価が高くなってきている。
		家電量販店（地 区統括部長）	販売量の動き	・プラズマテレビや薄型テレビなどのデジタルAV機 器商品の販売量が、前年比200%以上で推移してい る。
		乗用車販売店 （営業担当）	来客数の動き	・前年と比較して来店者が増えてきている。
		観光型ホテル （経営者）	販売量の動き	・北海道観光に知床や旭山動物園の効果が現れている ためか、宿泊人数は前年より落ち込みが小さい。消費 単価についても前年並みは確保できていないものの、 回復しつつある。道内客、道外客ともに減少率が鈍化 してきているというのが、正直な見方である。
		観光型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・9月は連休の日並びが良かったこともあり、宿泊人 数は前年比を7%程度上回っている。
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・来店による旅行申込が増加しており、宿泊の申込も 前年比で130%以上と好調に動いている。海外旅行に しても新婚旅行客の増加と好調なヨーロッパ旅行客 の申込増加によって先行受注の状況が良くなってき た。
		旅行代理店（従 業員）	来客数の動き	・来客数が昨年より2割アップしている。ただし客の 買上単価は昨年より1割減少している。
		観光名所（役 員）	販売量の動き	・ロープウェイの輸送人員は、8月までの前年比マイ ナスからプラスに転じつつある。
		美容室（経営 者）	お客様の様子	・客の来店周期が若干ではあるが短くなってきてお り、商品の動きも良くなってきた。
		設計事務所（所 長）	お客様の様子	・来年の物件が動き出し始め、問い合わせが多くなっ てきた。近年まれに見る出足の良さだ。
変わらない		商店街（代表 者）	販売量の動き	・衣料品関係の店では、8月以降ずっと気温が高かつ たことから、秋物が全く動かず前年を下回っている状 態であるものの、総体的な見方では大きな変化はみら れない。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・平日に訪れる固定客に変化はないが、休日は客が大 型店に流出していることから落ち込みが大きく、新規 客の増加が期待できない状況が続いている。
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・長い残暑も終わり、秋物シーズンに入り、少しずつ 季節商品が売れ出してきている。

	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・先月はやや持ち直しを感じたが、今月は選挙の影響や気温の高止まりなどで、中旬までは静かな動きであった。下旬に入り、本来のざわつき感も出てきて持ち直してきたが、はっきりと言い切れるほどではない。衣料品以外は集客が落ち込み、買上単価も下がっている。
	百貨店（売場主任）	単価の動き	・セーターやカットソー等の単価の低い商品が中心の販売状況となっていて、スーツ等の重衣料に関しては、必要なもの以外は買わない傾向にある。
	百貨店（役員）	来客数の動き	・比較的気温が高めに推移したため、季節商品の動きが鈍く、来客数も前年比96%と奮わず、客単価も前年を割り込んでいる。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・昨年は台風災害の復興工事等があり、現場労働者による需要があったため、前年比でみると前年を下回る結果となっているが、それ以上に客の買上点数が減少しており、買い控え傾向がみられる。
	コンビニ（店長）	単価の動き	・来客数が若干増加しているのですが、本来であればやや良いと答えたいが、客単価の下落が激しく、最終的な売上は変わらない状況である。客は安売りしている商品に目が行くようであり、そういった商品は動きが良い。
	衣料品専門店（店長）	単価の動き	・3か月前と比べて単価の推移が横ばいで変わらない。販売量についても変わらず、売上も横ばいである。
	家電量販店（経営者）	お客様の様子	・商品の販売量の下落とともに、商品単価も下がっている。客の買い控え傾向も強い。
	家電量販店（店員）	お客様の様子	・客数が少し減っている。また気温が高く、ストーブ等の暖房器具の売行きが伸びてこない。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・全体としては大きな変化はみられない。ただし単価の安い商品については、今まで前年並みに売れていたが、今月は大変厳しく、あまり売れていない。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・先月に引き続き、客数、単価とも前年比でマイナスとなった。中旬以降の2回の3連休はまずまずであったが、平日は相変わらず厳しい。売上の対前年比は10%以上のマイナスとなった。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ランチの売上は前年比で2割減少した。道内企業の景気落ち込みや2回の連休などが影響したのか、ビジネスマンの利用が激減した。夕食は前年を超えたが、予約のディナー客によるところが大きく、飲物中心のフリー客は減少した。全体としては大きく変わらないが、じわじわと下がってきている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・9月は良い天気の日が多く、また週末の連休も2回あったものの、昨年と比べると、タクシーの利用は大きなマイナスとなった。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・モデルハウス等の来場者が少ない状態が続いている。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売量の低迷もさることながら、単価が低下している状況が相変わらず続いている。かなり価格破壊が進んでいる状態にある。
やや悪くなっている	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・9月は残暑が続き、20日頃まではほとんど秋物の動きがなく、厳しかった。特にジャケット、セーター、カットソー等の商品が動かなかった。下旬に入り、秋物の動きが非常に良くなったが、去年には及ばない状況である。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・月初めに大きなキャンペーンを実施したが、客の購買意欲がなかなかみられなかった。客数は前月から若干回復傾向にあるが、依然として単価ダウンと無駄な物は買わないという買い控えが続いており、これらの傾向は変わらない状況にある。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・買物の傾向として、本当に必要なものしか買わなくなっており、その周辺の商品に客の手が届かなくなっている。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・展示会をよく行うが、今年は人出が非常に悪く、来客数が悪い状況である。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・例年9月は販売台数が多くなるが、今年は良くない。他の販売店についても同様であり、消費の拡大には至っていない。

		住関連専門店 (経営者)	お客様の様子	・商店街の通行量も依然として悪いようで、撤退する店舗が後を絶たない。入れ替わりにオープンする店の多くが、商店街としてはふさわしくないカラオケ店やパチンコ店である。
		その他専門店 [ガソリンスタンド](経営者)	競争相手の様子	・石油製品の高騰による客の買い控えがあり、販売量が減少しているため、競合による採算を度外視した価格競争が起きている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・各観光施設の来客数がかなり減っている。
	悪くなっている	スナック(経営者)	来客数の動き	・観光客と地元リピーターを対象にして商売しているが、これほど8月に比べて9月が落ち込むとは想像していなかった。先月の時点では少しずつ良くなっているかと思っただが、今月はまだ前年比が落ち込んでいる状態であり、不景気を実感している。
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・質の高い請負物件の需要に底堅いものがある。
		通信業(営業担当)	取引先の様子	・以前より残業、休日出勤等が増えたとのことを聞いており、稼働率の上昇がつかえる。
	変わらない	食料品製造業(団体役員)	それ以外	・原油価格の高騰は製造コストの上昇を招いており、中小企業の経営においては厳しい状況となっている。
		金融業(企画担当)	それ以外	・設備資金はやや増加しているが、一般企業向けは低迷している。個人消費は夏物商戦が堅調だったが、低価格志向もあり、総じて弱い。大型スーパーの進出で既存の小売店が押されているという事情もある。住宅着工の伸び悩みや公共投資の削減など、建設業界も厳しい。
	やや悪くなっている	輸送業(支店長)	受注価格や販売価格の動き	・ガソリンや重油等の燃料費のアップによるコスト増はトラック、フェリー、内向海運のコスト増加となって現れているが、道内の場合運賃価格あるいは単価に反映されにくく、経営悪化に直結している。
		輸送業(営業担当)	取引先の様子	・原油高による船会社の運賃値上げや、米国のハリケーン被害に伴う穀物輸送船のスケジュールの遅れなど悪条件が重なっている。
その他非製造業 [機械卸売](従業員)		受注量や販売量の動き	・7月をピークに下降傾向が強くなっており、受注見通しと実績の乖離が8月、9月と大きく出てきている。予想以上に消耗資材の出荷が減少している。	
その他企業[コンベンション担当](従業員)		受注量や販売量の動き	・衆議院選挙による影響もあるのか、宴会部門の受注が前年比で10%のマイナスとなった。宿泊部門は海外からの観光客が前年比で15%増と好調であるものの、国内からの観光客は愛知万博の影響が前年比で10%のマイナスとなった。	
悪くなっている				
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・正社員の求人数が緩やかに増加しているほか、派遣オーダーも増加傾向にあり、企業が一時の悲壮感から脱し、攻めに転じてきているように思われる。派遣のオーダーの内容に関しても、事務系派遣に加えて、イベント要員、販売業務の派遣など、売上に直結する人材を求めており、企業に活力が戻りつつある。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・小売業、スナックを除いた飲食業など、主要な業種の求人数は概ね前年比でプラスに転じた。一方で、今年前半まで好調だった建設業、建設関連業の求人数は前年比で2割ほどマイナスとなっている。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・接客サービス業界に伸びがみられるとともに、スナック等もやや回復傾向にある。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数が前年比で13か月連続で増加している。同時に、派遣や請負以外の直接雇用型の求人も多少増加してきている。
		学校[大学](就職担当)	採用者数の動き	・学生の採用内定率が昨年度より良く、多くの学生が希望する企業から内定を獲得している。
変わらない	求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・求人広告受理件数にあまり大きな変化はみられない。広告費全体で見れば、その約3割がリピーターによるものである。	

	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・地方の土建業等で倒産が相次ぎ、過疎化が顕著になっている。帯広市内のスーパーの売上も前年比でマイナスになっており、当地域の景況感は一段と落ち込んでいる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で18.7%と前月に引き続き増加となった。産業別にみると、建設業、製造業、卸小売業、飲食店、宿泊業が増加しており、運輸業、サービス業が減少している。4～8月までの累計では前年比で16.2%の増加となった。
やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求人数は前年比で8か月連続で増加したものの、新規求職者が前年比で3か月ぶりに増加した。特に常用雇用希望者で事業主都合離職者が増加している。
悪くなっている	-	-	-